

テーマ) 情報セキュリティガバナンス

情報化社会の発展に伴い、情報資産の管理・運用が重要な経営課題になっています。情報セキュリティに関する国家政策、社会的要請などを踏まえて、情報資産の利活用や的確なリスク対策に役立つ、情報セキュリティガバナンスの確立をご支援いたします。



Winner's & Company

2015.08.20

情報セキュリティガバナンスを考える

1

■■
世間が『賛同』する意見は、
すべて反映したい！

■■
社会が『均衡』する意見は、
すべて反映したい！



網羅思考 ≠ 意思決定

① 世論ベースで考える P.3

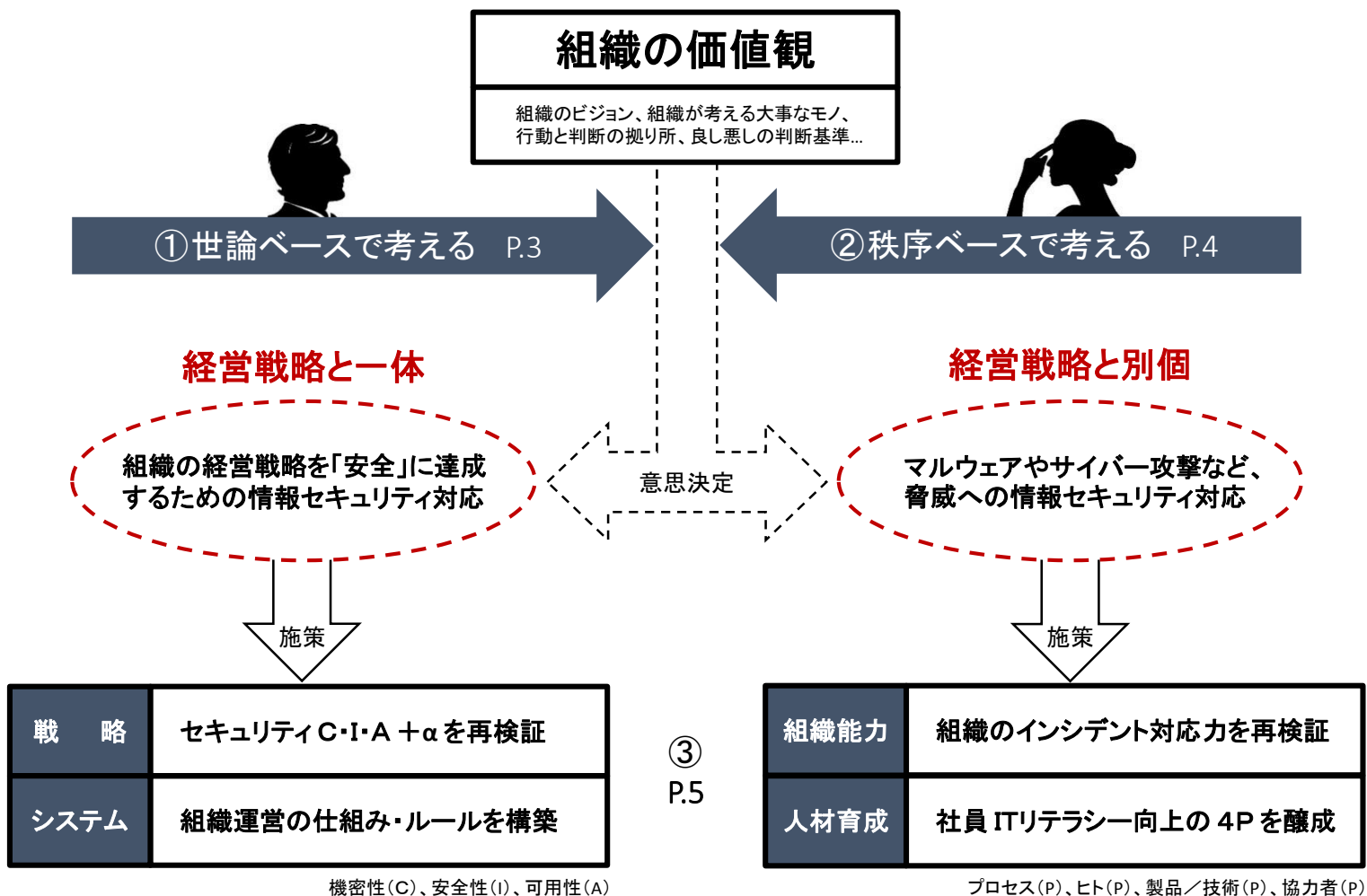
OR

現象思考 ≠ 意思決定

② 秩序ベースで考える P.4

情報セキュリティガバナンスを考える

2



① 世論ベースで考える

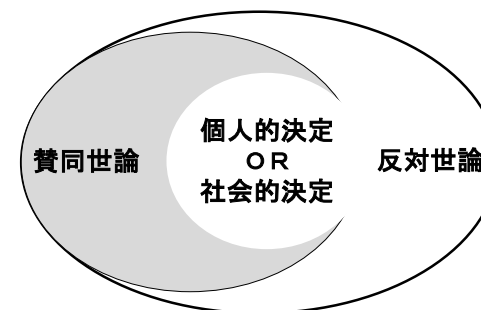
3

【世論とは】

1. 世間一般の意見をいい、大多数が共有している、又は、賛同を得られている意見など
2. 思想・哲学の違いなどで意見が割れて、対立し合うこともある

● 現実には、賛同・反対の二つの状態がある

- ・個人的決定 ➡ 功利主義 / 自由至上主義 / 社会自由主義などが世論に影響する
- ・社会的決定 ➡ 共同体主義などが世論に影響する



【実践方法】

世論ベースで考えるとは、図中4つの状態(賛同世論 / 反対世論 / 個人的決定 / 社会的決定)から導かれる 相関関係 / 因果関係を重要な判断基準 として意思決定 / 行動することです。

② 秩序ベースで考える

4

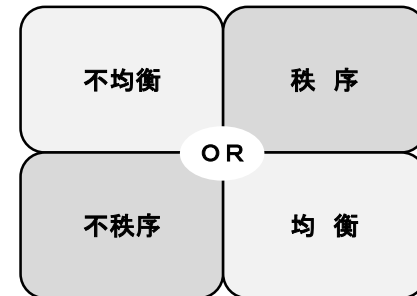
【秩序とは】

1. 物事の正しい順序、道筋
2. 社会の諸要素を相互に一定の関係・規則によって結びつけて、調和を保っている状態

● 現実には、秩序・不秩序の二つの状態がある

- ・秩序 ➡ 自然に均衡が成立すること (いずれは飽和)
- ・不秩序 ➡ 自然に均衡が成立しないこと

※ 現在の状態が「不秩序」な時に、「均衡」に近づけようとすることで、全体的な状態が悪化する場合もある。



【実践方法】

秩序ベースで考える—とは、図中4つの状態(秩序／不秩序／均衡／不均衡)から導かれる 「閾値」を重要な判断基準 として意思決定／行動することです。

③コンサルティングの概要

経営戦略と一体

戦略	セキュリティC・I・A+αを再検証
<ul style="list-style-type: none">● 経営戦略とOECD/ISMS基準の整合性検証支援<ul style="list-style-type: none">・機密性 (C = Confidentiality) ・完全性 (I = Integrity)・可用性 (A = Availability) 等を活用 －クラウド対応含－● 経営戦略とTR13335基準他の整合性検証支援<ul style="list-style-type: none">・責任追跡性 (A = Accountability)・真正性 (A = Authenticity) ・信頼性 (R = Reliability)・否認防止 (N = Non-Repudiation) 等を活用	
システム	組織運営の仕組み・ルールを構築
<ul style="list-style-type: none">● 経営戦略とCSMS/ISMS基準の融合化支援<ul style="list-style-type: none">・ISMS、CSMSフレームワーク等に準拠● 経営戦略と整合するISOステップアップ認証支援<ul style="list-style-type: none">・当社関連組織 JCSRフレームワーク等に準拠● 「情報セキュリティガバナンス報告書」整備支援<ul style="list-style-type: none">・経済産業省: 情報開示フレームワーク等に準拠	

経営戦略と別個

組織能力	組織のインシデント対応力を再検証
<ul style="list-style-type: none">● インシデント管理プロセス・課題の抽出/改善支援<ul style="list-style-type: none">・ISMS、ITILフレームワーク等を活用● サービスレベル要求に関する資料作成/整備支援<ul style="list-style-type: none">・SLA = Service Level Agreement フレームワーク等を活用● 組織内CSIRTの設置準備及び運用支援<ul style="list-style-type: none">・CSIRT = Computer Security Incident Response Teamの略	
人材育成	社員ITリテラシー向上の4Pを醸成
<ul style="list-style-type: none">● 情報技術とマインド・スキルの比較検証/教育支援<ul style="list-style-type: none">・プロセス (P = Processes) ・ヒト (P = People)・製品/技術 (P = Products) ・協力者 (P = Partners)ITSS、IPA、ITILフレームワーク等を活用● ITリテラシーと各リテラシーの比較検証/教育支援<ul style="list-style-type: none">・尺度 (有形性、信頼性、反応性、保証性、共感性)SERVQUALフレームワーク等を活用	

組織の価値観に合致した「情報セキュリティガバナンス」をご提供します

<http://www.winners-co.jp>

価値創造ビジネスの開発から「ニューフロンティア」を開拓する企業

社会貢献活動として、コンサルティング事業にCRM（コース・リレーテッド・マーケティング）を導入しました。

利益の一部は、再生可能エネルギー、飢餓・貧困撲滅、地域活性化、社会課題の解決を行う市民社会組織（NGO・NPO等）に寄付しています。



Hello, Future!
新経済連盟
Japan Association of New Economy

ウィナーズ・アンド・カンパニー株式会社
担当：森成、土屋、小泉
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-15-4
TEL: 03-5475-6568 FAX: 03-5475-6569
E-mail: info@winners-co.jp